

調査支援業務委託
今年度発掘作業進捗状況

今年度より、茅ヶ岳歴史文化研究所で調査技師として働かせていただいている長谷川哲也と申します。専門は中世城郭です。まだまだ勉強不足で皆様にもご迷惑をおかけするとは思いますが、日々精進してまいりますので、今後ともよろしく願いいたします。

さて、今年度我々が調査をしている遺跡は、かみはら上原遺跡といえます。本遺跡は広域農道沿い、標高およそ 800mの茅ヶ岳西麓に立地しています。現場から西に目を向けますと、北杜市内が一望でき、その先には甲斐駒ヶ岳をはじめとする南アルプスの巍巍たる山塊がそびえています。

本遺跡は西流する潤れ沢によって隣接する尾根と分断されており、尾根を隔てた南北には、現在、国指定史跡に向けて着々と準備が進められている梅之木遺跡、上ノ原遺跡が立地します。圃場整備事業にかかわる調査であるため広大な地域であり、トレンチ調査を経て、人力掘削作業へと移行しました。



本遺跡は主に平安時代の集落を中心とした遺跡です。もともと桑畑であった土地であるため、遺構にも桑の根が入り込み、なおかつ場所によっては巨石を抱いた状態で遺構が検出されています。そのような状況の中、これまでにおよそ

50軒の平安時代住居跡と、3軒の縄文時代住居跡が検出されています。前述した梅之木遺跡、上ノ原遺跡も平安時代集落の遺跡として著名であり、本遺跡も両遺跡との関連性が伺われます。集落が存在した時期を、遺構と遺物からおおよその年代を推測すると、およそ9世紀半ば頃には存在した集落と考えられます。ちなみに、この頃の京都では藤原氏が他の有力貴族の排斥に躍起になっていた頃です。



平安時代の住居にはカマドが付随します。カマドは住居東壁の中央付近にあるものがほとんどです。また、失火によるものか、故意によるものかは現段階では明言できませんが、火災によって焼失した住居も数軒確認されています。

これまでの主な出土遺物は、この時期特有の土器である甲斐型土器つぎの杯かめや甕かめ、内黒土器ぼくしよが出土し、墨書土器も数点見つっております。また、住居内からは鉄鏃てつぞくなどの金属製品も数点出土しており、住居と金属製品の関係も気にかかるところで



現在、今年度調査分の半分まで来たところです。今後の調査にご期待ください。



＝昨年引き続き整理作業中＝

昨年度は発掘作業として、堰口遺跡、竹宇遺跡、天王原遺跡、下神取遺跡の4遺跡を北杜市より受託し、遺跡発掘の作業は無事終了しました。今年度はそれらに伴う整理作業を中心に、調査支援業務の委託を受け、大勢の作業員さん達が作業に勤しんでおります。

整理作業というのは、出土した土器や石器（遺物という）を施設に持ち帰った後の作業です。洗浄→注記→接合→復元そして実測・拓本→デジタルデータ化→入稿という流れで報告書の出版を以ってその遺跡の発掘調査が完了となります。

まず洗浄ですが、当然土の中から出て来た土器片や石器等は土まみれの状態です。それを一つ一つ水洗いしていきます。そして、乾かした土器片それぞれに、出土した場所の情報を記入していくのが注記という作業です。これが終われば、例えば土器が混ざったとしても、どこの遺跡のどこら辺から出土した土器片なのか区別できるという訳です。

次にそれらをジグソーパズルのようにくっ付けるという作業。これが接合です。くっ付けるというより、付く物を探すと言った方が適当かも知れません。このように整理作業は、単調で地味な作業が続きます。



接合作業の様子

接合した結果、ほとんどの破片が付いて完全形に近いものや、その遺跡で特に重要な土器に関しては、欠損部分を再現する復元という作業を施します。

こうして、接合された破片や特徴的な遺物に関しては、実測と言ってその遺物の設計図のようなものを図面に起こします。縄文の様な細かな文様は拓本を取ります。それらをパ

ソコンに取り込み、デジタルのデータにして印刷所に入稿します。

この他にも、使用しなかった多くの遺物を整理整頓し重さを測るなどした後保管します。これら一連の作業が発掘調査の全様になります。



＝第4回伝統芸能研修会開催決定＝ 講師に内海さん！！

来る11月9日（土）に、今年で4回目を迎える事になります、明野町民俗芸能保存会による、「伝統芸能研修会」を開催することが決定いたしました。

毎年、春季例大祭でお神楽の奉納を実施している6つの団体による、舞の競演です。

今年は、当法人の元学芸員、内海美佳さんを講師にお招きして、お神楽にまつわる神話の解説や伝統芸能に関する勉強会を盛り込んでの開催となります。みなさん、お誘い合わせのうえ、お気軽にお越しください。

＝会員募集＝

茅ヶ岳歴史文化研究所では、私たちと一緒に活動して下さる方、ご賛同いただける方を募集しています。

こんなことをやってみたい人は、ぜひ！

- 歴史や文化財の研究を通じて知識を深めたい
- 活動を通じて文化財保護や活用に役立ちたい
- イベントを通じてさまざまな人と交流したい

入会金 1,000 円

年会費 2,000 円

かやぶんかわら版 第76号

平成25年9月25日発行

特定非営利活動法人 茅ヶ岳歴史文化研究所
(かやぶん)

TEL/FAX 0551-45-7672

ウェブサイト <http://kayabun.web.fc2.com/>

e-mail kayabun@hotmail.co.jp